

## 2023 年度 奨学生入学試験

# 地理歴史・公民・理科 〔世界史 B, 日本史 B, 政治・経済〕 〔物理基礎・化学基礎・生物基礎〕

(試験時間 60 分)

この問題冊子には、「世界史 B」「日本史 B」「政治・経済」の 3 科目及び「理科 (物理基礎・化学基礎・生物基礎)」を掲載しています。解答する科目を間違えないように選択しなさい。

### 注 意 事 項

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 この注意事項は、問題冊子の裏表紙にも続きます。問題冊子を裏返して必ず読みなさい。ただし、問題冊子を開いてはいけません。
- 3 この問題冊子は、135 ページあります。出題科目、ページ及び選択方法は、下表のとおりです。

出 題 科 目		ペ ー ジ	選 択 方 法
地理 歴史 ・ 公民	世界史 B	4 ~ 29	左の 3 科目のうち 1 科目を選択して解答する。
	日本史 B	30 ~ 61	
	政治・経済	62 ~ 89	
理科	物理基礎・化学基礎・ 生物基礎	91 ~ 135	試験時間内に左の 3 科目のうち 2 科目を選択して解答する。

- 4 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 5 「地理歴史・公民」の科目を選択する者は「**地理歴史・公民解答用紙**」を、「理科」の科目を選択する者は「**理科解答用紙**」を使用しなさい。

「理科」は解答用紙 1 枚で 2 科目を解答します。解答の順番は問いません。解答時間 (60 分) の配分は自由です。

**裏表紙へ続く、裏表紙も必ず読むこと。**

6 解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があるので、それぞれ正しく記入し、マークしなさい。

① 試験コード欄・座席番号欄

試験コード・座席番号(数字)を記入し、さらにその下のマーク欄にマークしなさい。正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。

② 氏名欄

氏名・フリガナを記入しなさい。

③ 解答科目欄

解答する科目を一つ選び、科目名の右の○にマークしなさい。マークされていない場合又は複数の科目にマークされている場合は、0点となります。

7 解答は、解答用紙の解答欄にマークしなさい。例えば、

10
----

と表示のある問いに対して③と解答する場合は、次の(例)のように解答番号10の解答欄の③にマークしなさい。

(例)

解答番号	解 答 欄									
10	①	②	●	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩

8 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離してはいけません。

9 試験終了後、問題冊子は持ち帰りなさい。

# 日本史 B

(解答番号  ~ )

**第 1 問** 次の文章 A・B を読み、下の問い(問 1～9) に答えよ。

A 1980年代、平城宮のすぐ東南の位置で<sup>Ⓐ</sup>長屋王邸宅跡が発掘された。約6万㎡という広大な敷地から出土した  は約3万5000点に及び、その解読によって、長屋王の当時の豊かな生活が明らかになった。<sup>Ⓑ</sup>律令制度下の貴族は、中央集権的な国家機構のもとで支配階級としての地位を固め、多くの身分的・経済的特権を有していた。貴族層が豊かな生活を送った背景には、土地・人民に対する一元的な支配体制が確立し、租税徴収が確実になった点あげられる。

律令国家では、人民は良民と賤民とに大別され、戸籍や計帳に登録された。戸籍を基本台帳として口分田が班給され、租が課せられたほか、<sup>Ⓒ</sup>良民男性は年齢によって正丁・次丁・少丁に区分され、調・庸・雑徭などの人頭税も課せられた。このほかにも、成人男性は3～4人に1人の割合で兵士に徴発された。春に稲を貸しつけて秋の収穫時に高い利息とともに徴収する  の制度も次第に強制的な性格をもつようになり、それも国家の重要な財源となった。

問1 空欄   に入る語句の組合せとして正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① ア 古文書    イ 出 挙
- ② ア 古文書    イ 義 倉
- ③ ア 木 簡    イ 出 挙
- ④ ア 木 簡    イ 義 倉

問2 下線部③に関連して、この人物は藤原四子の策謀によって729年に自殺に追いこまれた。この事件の後の奈良時代の政局に関して述べた次の文Ⅰ～Ⅲについて、古いものから年代順に正しく配列したものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。

- Ⅰ 藤原仲麻呂は、擁立した淳仁天皇から恵美押勝の名を賜った。
- Ⅱ 藤原百川は、道鏡による仏教勢力の介入で混乱した政治の再建に着手した。
- Ⅲ 橘諸兄は、その政権で、唐から帰国した玄昉と吉備真備を重用した。

- ① Ⅰ — Ⅱ — Ⅲ      ② Ⅰ — Ⅲ — Ⅱ      ③ Ⅱ — Ⅰ — Ⅲ
- ④ Ⅱ — Ⅲ — Ⅰ      ⑤ Ⅲ — Ⅰ — Ⅱ      ⑥ Ⅲ — Ⅱ — Ⅰ

## 日本史 B

問 3 下線部㉖に関連して、古代の官職に関して述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 太政官は、神々の祭祀をつかさどるとともに行政全般を管轄した。
- ② 政務を担当するため、宮内省や文部省などの五つの省が置かれた。
- ③ 行政の運営は、左大臣や右大臣などの公卿による合議で行われた。
- ④ 国司交替時の事務引継ぎを監督させるため、檢非違使が置かれた。

問 4 下線部㉗に関して述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① 次丁は、61～65歳の男性で、調・庸・雑徭の負担は正丁の半分であった。
- ② 調は、絹や布など郷土の特産品を納めるもので、国衙の財源となった。
- ③ 庸は、国司の命令により従事する労役で、正丁で年間60日を限度とした。
- ④ 雑徭は、都での歳役に代えて布を納めるもので、中央政府の財源となった。

(下書き用紙)

日本史Bの試験問題は次に続く。

## 日本史 B

B 11世紀に入ると摂関政治は全盛期を迎え、㉔藤原道長・頼通父子が権勢を誇った。しかし、藤原氏が長く政権を独占したことによって、中央政治は形式と慣例に流れ、㉔地方政治も国司に支配を一任する傾向が強まった。

11世紀中頃、藤原氏を外戚としない後三条天皇が即位すると、藤原氏の権力を排するのに学識にすぐれた人材が重く用いられ、㉔天皇は国政の改革に着手した。白河天皇も父の後三条天皇にならって親政を展開し、1086年に幼少の堀河天皇に譲位すると、上皇として院政を行い、権勢をふるった。このように、政治の実権が摂関家から上皇に移ると、この後、鳥羽上皇、後白河上皇と、3人の上皇による院政が100年あまり続いた。㉔院政期には、大寺院や武士も独自の権力を形成し、社会を實力で動かそうとする風潮が強まった。12世紀には、中央貴族の権力闘争に武力が用いられ、㉔武士が乱で大きな役割を果たすと、中央政界における武士の地位と権力は急速に高まった。

問5 下線部㉔に関して述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 

5
---

- ① 藤原宇合を祖とする藤原北家の出身である。
- ② 甥である藤原伊周と、政権の座をめぐる争った。
- ③ 彼の書いた日記『小右記』は、自筆のものが現存している。
- ④ 宇治の別荘を寺として、平等院鳳凰堂を建立した。

問6 下線部㉔に関連して、10世紀に入って律令体制が行き詰まると、政府は国司に大きな権限を与えた。その結果に関して述べた次の文X・Yについて、その正誤の組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 6

X それまで地方の政治を担ってきた郡司の役割が衰えた。

Y 人身賦課方式が崩れて、土地を基礎に徴税する体制が確立した。

① X 正 Y 正

② X 正 Y 誤

③ X 誤 Y 正

④ X 誤 Y 誤

問7 下線部㉕に関連して、後三条天皇の土地政策に関して述べた文として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 7

① 中央に記録荘園券契所を設けて、荘園の証拠書類を審査した。

② 荘園整理令を発したほか、米をはかる枡の大きさを統一した。

③ 摂関家の荘園も例外とせず、基準に合わない荘園を停止した。

④ 荘園のほか、国司が支配する公領(国衙領)も整理対象とした。



日本史 B

問 8 下線部㉔の時期の政治・社会に関して述べた次の文 a～d について、正しいものの組合せを、下の①～④のうちから一つ選べ。 8

- a 上皇らは仏教を厚く信仰し、白河天皇が造立した法勝寺など多くの大寺院が建てられた。
- b 貴族の間では、任国に赴任せずに国司としての収入のみを受ける成功などが見られた。
- c 大寺院は、僧兵を用いて朝廷に強訴するようになり、興福寺の僧兵は日吉神社の神輿をかついで要求を通そうとした。
- d 上皇が国の収益をにぎって、公領を上皇の私領のように扱う院分国の制度が広まり、院政を支える経済的基盤となった。

- ① a・c            ② a・d            ③ b・c            ④ b・d

問 9 下線部㉕に関連して、12世紀の源氏が関わった乱に関して述べた次の文 X・Y と、それに該当する人物 a～d との組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 9

- X 保元の乱では、崇徳上皇側に加担して源氏の武士を動員したが、後白河天皇側に敗れた。
- Y 平治の乱では、院の近臣どうしの対立から源氏と結んだが、武力にまさる平清盛によって滅ぼされた。

- |        |        |
|--------|--------|
| a 源義朝  | b 源為義  |
| c 藤原通憲 | d 藤原信頼 |

- ① X — a    Y — c            ② X — a    Y — d  
③ X — b    Y — c            ④ X — b    Y — d

(下書き用紙)

日本史Bの試験問題は次に続く。

**第2問** 次の文章A・Bを読み、下の問い(問1～9)に答えよ。(史料は、一部省略したり、書き改めたりしたところもある。)

A 鎌倉時代初期、地方に設置された守護の権限は、大犯三カ条などの軍事・警察に関わるものが中心であった。やがて、<sup>a</sup>南北朝動乱期に、**ア**と呼ばれる幕府の裁決を現地で強制執行する権限などが与えられた。また、動乱が長期化するなかで、室町幕府は<sup>b</sup>半済令を發布し、守護の権限を強化した。

守護は、こうして強められた権限を利用しながら、国内の荘園や公領を侵略し、国衙の機能も吸収して一国全体に及ぶ地域的支配権を確立した。動乱が終息すると、任国も世襲されるようになり、守護は守護大名とも呼ばれるようになった。しかし、<sup>c</sup>応仁の乱後、室町幕府が衰退すると、守護は幕府の後ろ盾を失って勢力を弱め、<sup>d</sup>それまでの幕府と守護による支配体制は崩壊していった。そして、山城国などで**イ**が発生するなど、下剋上の風潮が全国に広がった。

問1 空欄**ア** **イ**に入る語句の組合せとして正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 **10**

- |   |            |        |
|---|------------|--------|
| ① | ア 使節遵行権    | イ 一向一揆 |
| ② | ア 使節遵行権    | イ 国一揆  |
| ③ | ア 刈田狼藉の検断権 | イ 一向一揆 |
| ④ | ア 刈田狼藉の検断権 | イ 国一揆  |

問2 下線部㉔の頃に起きた出来事に関して述べた次の文Ⅰ～Ⅲについて、古いものから年代順に正しく配列したものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。

11

- Ⅰ 将軍の弟と執事の間での対立が武力衝突に発展した。
- Ⅱ 当面の政治方針として建武式目が発表された。
- Ⅲ 京都の室町に、花の御所と呼ばれる将軍の邸宅が完成した。

- ① Ⅰ — Ⅱ — Ⅲ      ② Ⅰ — Ⅲ — Ⅱ      ③ Ⅱ — Ⅰ — Ⅲ
- ④ Ⅱ — Ⅲ — Ⅰ      ⑤ Ⅲ — Ⅰ — Ⅱ      ⑥ Ⅲ — Ⅱ — Ⅰ

## 日本史 B

問 3 下線部⑥に関連して、次の史料は、1352年に発布された半済令の一部である。この史料に関して述べた文として誤っているものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 12

### 史料

一、寺社本所領の事、<sup>かんのう</sup>観応三・七・廿四御沙汰  
(中略)次に近江・美濃・尾張三ヶ国の本所領半分の事、<sup>ひょうろうりょうしよ</sup>兵糧料所(注1)として、当年一作、<sup>あず</sup>軍勢に預け置くべきの由、<sup>あいふ</sup>守護人等に<sup>おわ</sup>相触れ<sup>おわ</sup>訖んぬ(注2)。半分に於いては、<sup>よろ</sup>宜しく本所に分ち渡すべし。若し<sup>も</sup>預<sup>あずかりにん</sup>人事を左右に<sup>そう</sup>寄せ(注3)、<sup>さりわた</sup>去渡さざれば、<sup>いちえん</sup>一円に本所に返付すべし。

(『建武以来追加』)

(注1) 兵糧料所：兵糧米の用途のために指定された所領のこと。

(注2) 相触れ訖んぬ：通知したの意。

(注3) 事を左右に寄せ：のらりくらりと言い逃れをして。

- ① 守護に対して、荘園の年貢の半分を徴発する権限を与えている。
- ② 期間は1年であり、本所が承諾しない場合は対象としないとある。
- ③ 対象となる地域は、現在の岐阜県とそれに隣接した地域である。
- ④ 幕府が南朝に対抗して、守護を味方につけるために発布したと考えられる。

問4 下線部㉑に関連して、次の㉒は『真如堂縁起』の一部で、応仁の乱の頃に奇襲戦法に用いられた歩兵が略奪行為をしている場面を描いたものである。この歩兵の名称として正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 13



- ① 足軽      ② 悪党      ③ 地頭      ④ 寄子

問5 下線部㉓に関連して、室町幕府の機構に関して述べた次の文a～dについて、正しいものの組合せを、下の①～④のうちから一つ選べ。 14

- a 将軍を補佐する管領は、細川・畠山・京極氏から交代で選ばれた。  
 b 守護は領国を守護代に任せ、在京して幕府に仕えるのが原則とされた。  
 c 九州の諸将を統制するのに、地方機関として鎮西奉行が置かれた。  
 d 関東には鎌倉公方が置かれ、その補佐として関東管領が任じられた。

- ① a・c      ② a・d      ③ b・c      ④ b・d

## 日本史 B

B 鎌倉時代後期以降、畿内を中心に⑤惣村と呼ばれる自治的な村落が形成された。惣村は、村民が集まって開かれる寄合の決定によって運営され、村内の秩序を維持するために、村民自らが守るべき掟を定めていた。こうして強められた連帯意識によって、やがて、年貢の減免や不法を働く代官の免職などを、惣村全体で領主に求める実力行使も見られるようになった。

室町時代に入ると、農業の発展はめざましく、土地の生産性を向上させる多角化・集約化が進められた。灌漑施設かんがいの整備によって、15世紀前半頃の畿内では  が始まったほか、水稻の品種改良も進んだ。肥料も鎌倉時代の刈敷・草木灰に加えて  が広く普及し、収穫の安定や地味の向上をもたらした。こうした生産性の向上は⑥農民の生活を豊かにし、物資の需要が高まると、⑧農村にも商品貨幣経済が浸透するようになった。

問6 空欄   に入る語句の組合せとして正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

- ① ウ 二毛作    エ 下 肥
- ② ウ 二毛作    エ 金 肥
- ③ ウ 三毛作    エ 下 肥
- ④ ウ 三毛作    エ 金 肥

問7 下線部㉔に関連して、惣村に関して述べた次の文X・Yと、それに該当する語句a～dとの組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

16

X 村内の秩序を維持するために、村民自身が警察権を行使した。

Y 領主に対して、全員が耕作を放棄して領外や山林に隠れる実力行使があった。

a 地下請

b 地下検断

c 村切

d 逃散

① X — a    Y — c

② X — a    Y — d

③ X — b    Y — c

④ X — b    Y — d

問8 下線部㉕に関連して、室町時代から戦国時代には農民や都市民の地位向上によって、民衆が参加して楽しむ庶民文芸が流行した。庶民文芸に関して述べた次の文X・Yについて、その正誤の組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

17

X 庶民の自由な感情を表現した小歌の歌集として、『梁塵秘抄』が編集された。

Y 人びとが句を詠み継いでいく連歌が広く流行し、世阿弥によって俳諧連歌集の『犬筑波集』が編集された。

① X 正    Y 正

② X 正    Y 誤

③ X 誤    Y 正

④ X 誤    Y 誤



日本史 B

問 9 下線部㉔に関連して、室町時代の社会経済に関して述べた文として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 

18
----

- ① 市場の回数が増え、応仁の乱後には月に6回開く六斎市が一般化した。
- ② 中国から流入した明銭に加えて、幕府が鑄造した貨幣が流通した。
- ③ 酒屋などの富裕な商工業者は、土倉と呼ばれる高利貸業者を兼ねた。
- ④ 大山崎油座は、油の販売と原料である荏胡麻購入の独占権を認められた。

(下書き用紙)

日本史Bの試験問題は次に続く。

**第3問** 次の文章 A・B を読み、下の問い(問 1～9)に答えよ。(史料は、一部省略したり、書き改めたりしたところもある。)

A 江戸幕府は、キリスト教の禁止と、西国大名が貿易によって富強化するのを防ぐことを目的として、日本人の海外渡航や貿易に制限を加えた。

1616 年には中国船以外の外国船の来航を平戸・長崎に限り、1633 年には **ア** 以外の日本船の海外渡航を禁じ、1635 年には日本人の海外渡航と在外日本人の帰国を全面的に禁止した。そして、島原の乱を鎮圧した後、キリスト教の禁圧を強め、1639 年には **イ** 船の来航を禁じた。こうして、貿易船の来航はオランダと中国に限られ、貿易港も長崎に限定された。その結果、長崎での貿易額は年々増加したが、同時に金・銀・銅の海外への流出も激しくなったため、㉑ 17 世紀末頃から、幕府はしばしば輸入額などを制限した。また、長崎は貿易以外の面でも、㉒ 幕府が海外の事情を知るための窓口として機能した。

18 世紀の後半以降、産業革命によって工業化が進んだ欧米諸国は、国外市場や原料供給地を求めてアジアへの進出を本格化させた。日本もその対象となり、㉓ 外国船の来航により対外的な緊張が高まると、イギリスなどの諸外国と衝突するようになった。1837 年には、㉔ アメリカの商船が幕府によって撃退される事件が発生した。

問 1 空欄 **ア** **イ** に入る語句の組合せとして正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 **19**

- ① ア 朱印船      イ ポルトガル
- ② ア 朱印船      イ スペイン
- ③ ア 奉書船      イ ポルトガル
- ④ ア 奉書船      イ スペイン

問2 下線部⑤に関連して、1715年にも海舶互市新例が発せられて貿易額が制限されたが、これを実施した人物が行った政策に関して述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 20

- ① 朝鮮からの国書における将軍の呼称を「日本国王」に改めさせた。
- ② 最初の計数銀貨である南鐐二朱銀を鑄造した。
- ③ 窮乏した旗本・御家人を救済するために棄捐令を発した。
- ④ 関東取締出役を設置して犯罪の取締りを強化した。

問3 下線部⑥に関連して、江戸時代の海外情報の流入に関わる出来事に関して述べた次の文Ⅰ～Ⅲについて、古いものから年代順に正しく配列したものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。 21

- Ⅰ 杉田玄白らが最初の翻訳解剖書である『解体新書』を完成させた。
- Ⅱ キリスト教関係以外の漢訳洋書について、輸入制限を緩和した。
- Ⅲ 屋久島に潜入していたイタリア人宣教師シドッチが捕らえられた。

- ① Ⅰ — Ⅱ — Ⅲ      ② Ⅰ — Ⅲ — Ⅱ      ③ Ⅱ — Ⅰ — Ⅲ
- ④ Ⅱ — Ⅲ — Ⅰ      ⑤ Ⅲ — Ⅰ — Ⅱ      ⑥ Ⅲ — Ⅱ — Ⅰ

日本史 B

問 4 下線部㉔に関連して、18世紀後半以降に日本に来航した外国船に関して述べた次の文 X・Y と、それに該当する下の地図上の位置 a～d との組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 22

X イギリス船のフェートン号は、この地に侵入して薪水や食料を要求した。

Y ロシア使節ラクスマンは、この地に来航して幕府に通商を要求した。



① X — a      Y — c

② X — a      Y — d

③ X — b      Y — c

④ X — b      Y — d

問 5 下線部④に関連して、次の史料はこの事件について書かれた蘭学者の著作の一部である。この史料に関して述べた下の文 X・Y について、その正誤の組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 23

## 史料

イギリス(注1)は日本に対し、敵国にては之無く、いはゞ付合も之無き他人に候故、今彼れ漂流人を憐れみ、仁義を名とし、態々送り来り候者を、何事も取合申さず(注2)、直に打払に相成候はゞ、日本は民を憐まざる不仁の国と存じ、(中略)理非も分り申さざる暴国と存じ、不義の国と申し触らし、(中略)恐れながら、国家の御武威を損ぜられ候様にも相成候はんやと、恐多くも考えられ候。  
(『戊戌夢物語』)

(注1) イギリス：アメリカの誤り。

(注2) 何事も取合申さず：何の話し合いもすることなくの意。

X 日本人漂流民を乗せていたアメリカの商船モリソン号を、幕府が異国船打払令にもとづいて撃退したことを批判している。

Y 史料の著者である渡辺崋山が幕府を批判したなどの罪で処罰され、宝暦事件と呼ばれた。

① X 正 Y 正

② X 正 Y 誤

③ X 誤 Y 正

④ X 誤 Y 誤

## 日本史 B

B 江戸時代初期，㉔幕府が実施した大名統制策によって，幕府の権威は揺るぎないものになったが，改易により主家を失った牢人が増加するなど，社会不安も増大した。そのため，幕府は武断政治から文治政治へと転換をはかり，㉕4代将軍の徳川家綱，5代将軍の徳川綱吉の時代に強く推進された。一方で，支出は増大することになり，幕府は財政難という新たな問題に直面した。

18世紀以降に行われた，㉖享保の改革をはじめとする幕政改革は，そうした財政難からの脱却を目指して行われたものであったが，いずれも根本的な解決には至らなかった。幕府の財政収入の中心は年貢・諸役の徴収であり，幕藩体制は農業生産のうえに成り立っていた。しかし，㉗貨幣経済が発展するなかで，農民の階層分化が進み，本百姓体制も動揺したため，幕府や諸藩の財政は不安定なものとなっていくた。

問6 下線部㉔に関連して，幕府の大名統制に関して述べた次の文X・Yについて，その正誤の組合せとして正しいものを，下の①～④のうちから一つ選べ。

24

X 武家諸法度を制定して大名を統制したが，長く功績のあった外様大名や九州などの遠方に所在する大名は処分対象とされなかった。

Y 幕府は大名に対して，石高を基準として城郭の修築や河川の改修といった土木工事などの普請役を負担させた。

① X 正 Y 正

② X 正 Y 誤

③ X 誤 Y 正

④ X 誤 Y 誤

問7 下線部①の時代に行われた政策に関して述べた文として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 25

- ① 儒教を重視し、孔子を祀る湯島聖堂を建てて林鳳岡を大学頭に任じた。
- ② 慶安の変が起こると、牢人の増加を防ぐために末期養子の禁止を緩和した。
- ③ 武家諸法度の第1条を改め、忠孝や礼儀による秩序を重んじた。
- ④ 新たな宮家として閑院宮家を創設するなど、天皇家との結びつきを強めた。

問8 下線部⑧のときに実施された政策に関して述べた文として正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 26

- ① 幕府は金銭貸借関係の訴訟を受理しないとして、当事者間で解決させる相対済し令を出した。
- ② 年貢率を定める際に定免法を改めて検見法を採用し、税率の引上げによる年貢の増徴を目指した。
- ③ 大名から米を上納させる上げ米を実施し、参勤交代を廃止して大名の負担を緩和した。
- ④ 目安箱の投書によって小石川養生所を設置し、無宿人を強制的に収容して職業技術を習得させた。



## 日本史 B

問 9 下線部④に関連して、次の史料は、18世紀前半の社会の様子を記した太宰春台の著作の一部である。この史料の内容に関して述べた文X・Yと、その背景を説明した文a・bとの組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

27

### 史料

今の世の諸侯は、大も小も、皆首<sup>こうべ</sup>をたれて町人<sup>むしん</sup>に無心をいひ、江戸、京都、大坂、其外<sup>そのほか</sup>処々<sup>しよしよ</sup>の富商<sup>たのん</sup>を憑<sup>たのん</sup>で、其<sup>その</sup>つづ<sup>つづ</sup>け<sup>ばかり</sup>計<sup>ことごと</sup>にて(注1)世を渡る。邑入<sup>むらいり</sup>(注2)をば悉<sup>ことごと</sup>く其<sup>ほう</sup>方<sup>ふりむ</sup>に振<sup>ふりむ</sup>向け<sup>む</sup>置<sup>む</sup>て、収<sup>じせつ</sup>納<sup>じせつ</sup>の時<sup>し</sup>節<sup>せんか</sup>には、子<sup>ふう</sup>銭<sup>たぐい</sup>家より倉<sup>たぐい</sup>を封<sup>たぐい</sup>ずる類<sup>たぐい</sup>也。子<sup>い</sup>銭<sup>い</sup>家とは、金<sup>い</sup>銭<sup>い</sup>を借<sup>い</sup>す者<sup>い</sup>を云<sup>い</sup>ふ。

(『経済録』)

(注1) 其<sup>い</sup>つづ<sup>い</sup>け<sup>い</sup>計<sup>い</sup>にて：その援助<sup>い</sup>だけ<sup>い</sup>での意<sup>い</sup>。

(注2) 邑入<sup>い</sup>：年貢<sup>い</sup>のこと。

### 内容

X 農民が町人から金を借りて、それでも年貢を払えなくなった場合には土地を手放して小作人に転落する有様であると述べている。

Y 大名が町人から金を借りて、年貢を収納する時期には高利貸によって倉が差し押さえられる有様であると述べている。

### 背景

a 農民は領主による年貢増徴策によって生活が苦しくなり、田畑を質に入れて借金するなど、貨幣経済にも巻きこまれて窮乏した。

b 大名は年貢米を現金に換えて生活に必要なものを購入していたため、米価に比べて諸物価が上昇すると、生活が苦しくなった。

① X — a      ② X — b      ③ Y — a      ④ Y — b

(下書き用紙)

日本史Bの試験問題は次に続く。

**第 4 問** 次の文章 A・B を読み、下の問い(問 1～9)に答えよ。(史料は、一部省略したり、書き改めたりしたところもある。)

A 明治政府にとって、江戸幕府が幕末に欧米諸国と結んだ不平等条約の改正は、近代国家を確立するうえで重要な課題であった。次の表は、条約改正実現までの過程を交渉担当者ごとに示したものである。

表

担当者	交渉経過・結果
<span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">ア</span>	条約改正の予備交渉と欧米の制度視察を目的に、自らを大使とした使節団を派遣
寺島宗則	税権回復でアメリカの賛成を得たが、イギリス・ドイツの反対によって失敗
① <u>井上馨</u>	法権回復を目的に条件を提案したが、国内の反対で失敗
大隈重信	法権回復を目的に条件を提案したが、大隈が反対派に襲撃されて挫折
青木周蔵	法権回復と税権一部回復の交渉が順調に進んでいたが、 <span style="border: 1px solid black; padding: 2px;">イ</span> で挫折
陸奥宗光	② <u>領事裁判権の撤廃と相互対等の最恵国待遇などを内容とする条約に調印</u>
小村寿太郎	関税自主権の完全回復を内容とする改正条約に調印

問1 空欄 **ア** **イ** に入る語句の組合せとして正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 **28**

- ① ア 岩倉具視      イ 大津事件
- ② ア 岩倉具視      イ 義和団事件
- ③ ア 大久保利通    イ 大津事件
- ④ ア 大久保利通    イ 義和団事件

問2 下線部③に関連して、この人物が行った条約改正交渉に関して述べた文として誤っているものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 **29**

- ① 領事裁判権を撤廃する条件として、日本国内を外国人に開放するという内容が含まれていた。
- ② 外国人接待の社交場として鹿鳴館を建設し、これを利用した極端な欧化主義を展開した。
- ③ 大審院のみではあったが、外国人判事の任用を認めていたことがイギリスの新聞に掲載されると、国内で反対論が高まった。
- ④ 交渉中にノルマントン号事件が発生し、イギリス領事による海事審判で船長に過失責任なしとされた。

日本史 B

問 3 下線部⑥に関して述べた次の文 a～d について、正しいものの組合せを、下の①～④のうちから一つ選べ。 30

- a 第 2 次伊藤博文内閣が日英通商航海条約の調印に成功した。
- b 第 2 次松方正義内閣が日米通商航海条約の調印に成功した。
- c 条約が調印された背景には、東アジア進出をはかるロシアを警戒して調印国が日本に対して好意的になったことがあげられる。
- d 条約が調印された背景には、遼東半島を清へ返還するようロシアから要求された日本が危機感を抱いたことがあげられる。

- ① a・c            ② a・d            ③ b・c            ④ b・d

問 4 日本が明治時代の初期に近隣諸国と結んだ条約に関して述べた次の文 X・Y について、その正誤の組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 31

- X 清国と日清修好条規を結んだが、これは領事裁判権を認め合うことなどを定めた対等条約であった。
- Y 朝鮮と日朝修好条規を結んだが、これは日本の関税免除を認めさせるなどの不平等条約であった。

- ① X 正    Y 正                            ② X 正    Y 誤  
③ X 誤    Y 正                            ④ X 誤    Y 誤

(下書き用紙)

日本史Bの試験問題は次に続く。

## 日本史 B

B 明治政府は、1890年の最初の衆議院議員総選挙を前に、政党の動向に政府の政策は左右されないという超然主義の姿勢を鮮明にした。これは、自由民権運動を推進した自由党・立憲改進黨などの民権派各党が再結集を進めていたためである。㉓初期議会では、このような政府と政党との対立が続き、政府は対応に苦慮しながら政策の実現をはかった。

やがて、政府と政党との結びつきが進み、自由党や進歩党の党首が国務大臣として内閣に加わるなどの変化が見られた。1898年には、自由党と進歩党の合同によって **ウ** が結成され、日本で最初の政党内閣が成立した。この頃から政府内では、㉔保守政党を結成して衆議院に基盤を置こうとする伊藤博文と、貴族院や軍部を基盤として政党政治の排除を訴える㉕山県有朋の方針の違いが顕著になっていった。そして、㉖西園寺公望と桂太郎が、それぞれ伊藤博文と山県有朋の方針を受け継ぎ、両者が交互に内閣を担当した。1912年末、第2次西園寺公望内閣が総辞職して、内大臣であった桂太郎が三度目の内閣を組織すると、内大臣が首相となるのは宮中と府中（政府）との境界を乱すとの批判が起り、政党勢力などが、「**エ**・憲政擁護」を掲げて第一次護憲運動を展開した。

問5 空欄 **ウ** **エ** に入る語句の組合せとして正しいものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 **32**

- |   |   |      |   |      |
|---|---|------|---|------|
| ① | ウ | 憲政本党 | エ | 民力休養 |
| ② | ウ | 憲政本党 | エ | 閥族打破 |
| ③ | ウ | 憲政党  | エ | 民力休養 |
| ④ | ウ | 憲政党  | エ | 閥族打破 |

問6 下線部㉔に関連して、初期議会の様相を述べた次の文Ⅰ～Ⅲについて、古いものから年代順に正しく配列したものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。

33
----

- Ⅰ 政府は、海相樺山資紀の「蛮勇演説」をめぐって民党と衝突し、海軍拡張を含む予算案が大幅に削減されたため、衆議院を解散した。
- Ⅱ 政府は、朝鮮半島を含む「利益線」の防衛の必要性を主張し、民党の一部を切り崩して予算を成立させた。
- Ⅲ 政府は、衆議院議員総選挙に際して、内務大臣の品川弥二郎を中心に激しい選挙干渉を行い、政府支持の候補者を当選させようとした。

- ① Ⅰ — Ⅱ — Ⅲ      ② Ⅰ — Ⅲ — Ⅱ      ③ Ⅱ — Ⅰ — Ⅲ  
 ④ Ⅱ — Ⅲ — Ⅰ      ⑤ Ⅲ — Ⅰ — Ⅱ      ⑥ Ⅲ — Ⅱ — Ⅰ



## 日本史 B

- 問 7 下線部④に関連して、次の史料は伊藤博文が1900年に政党を結成した際に、幸徳秋水が発表した論説の一部である。この史料に関して述べた下の文 X・Y について、その正誤の組合せとして正しいものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

34

### 史料

とし こうし 歳ハ庚子に在り八月某夜、 ぼう や きんぷうせきれき 金風淅瀝(注1) として つゆ 露白く天高きの時、 いっせい 一星 忽焉(注2) として お 墜ちて声あり、 ああ か しこう その 嗚呼自由党死す矣、 而して其光栄ある歴史ハ 全く まっさつ 抹殺されぬ。(中略) 見よ今や諸君ハ退去令(注3) 發布の総理伊藤侯、 退去 令發布の内相山県侯の忠実なる政友として、 なんじ 汝自由党の死を みる 路人の如く、 吾人ハ ひと ひとり朝報(注4) の ころい よ な 孤壘に 拠って 尚ほ自由平等文明進歩の ために奮闘し つゝあることを。

よろづちようほう  
(『万朝報』)

- (注1) 金風淅瀝：秋風がさびしく吹いているの意。  
(注2) 忽焉：たちまちの意。  
(注3) 退去令：1887年に發布された条例のこと。  
(注4) 朝報：『万朝報』のこと。

- X 幸徳秋水は、旧自由党系が自由民権運動以来の光栄ある歴史に背を向けて立憲政友会に合流したことを嘆いている。  
Y 幸徳秋水は、旧自由党系が新聞紙条例を発した時の首相である伊藤博文と合流したことを嘆いている。

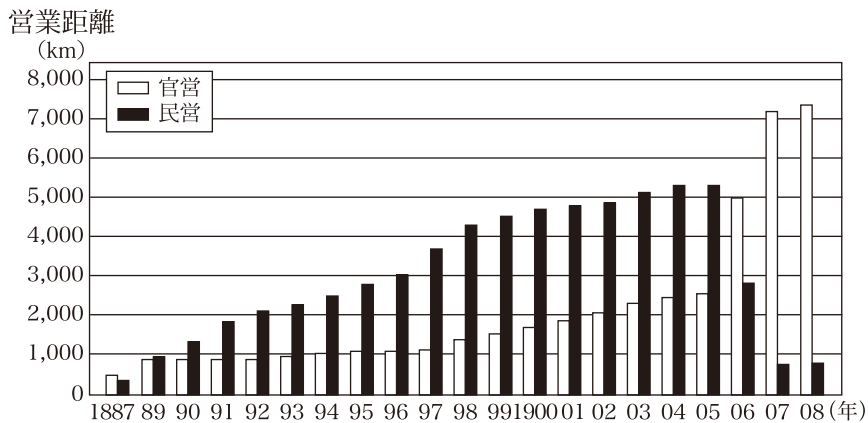
- ① X 正 Y 正                      ② X 正 Y 誤  
③ X 誤 Y 正                      ④ X 誤 Y 誤

問8 下線部㉔に関連して、第2次山県有朋内閣の政策に関して述べた次の文a～dについて、正しいものの組合せを、下の①～④のうちから一つ選べ。 35

- a 軍部大臣現役武官制を廃止した。
- b 文官任用令を改正した。
- c 華族令を公布した。
- d 治安警察法を公布した。

- ① a・c      ② a・d      ③ b・c      ④ b・d

問9 下線部㉕に関連して、第1次西園寺公望内閣は全国の鉄道網を統一的に管理しようとした。明治時代の鉄道の発達を示した次のグラフに関して述べた文として誤っているものを、下の①～④のうちから一つ選べ。 36



(日本統計協会『日本長期統計総覧』により作成)

- ① 東海道線が全通した年に、民営鉄道の営業距離が官営鉄道を上回った。
- ② 日清戦争後に、民間資本によって鉄道建設が積極的に進められた。
- ③ 日露戦争中は重工業資材が不足したため、官営鉄道の営業距離数は減った。
- ④ 鉄道国有法の制定によって、官営鉄道の営業距離が民営鉄道を上回った。

◆ 写 真 提 供 等 ◆

2023年度奨学生入学試験【世界史B】

- |                   |        |
|-------------------|--------|
| 1)「ギザの大ピラミッド」     | 写真：アフロ |
| 2)「ミロのヴィーナス」      | 写真：アフロ |
| 3) ミケランジェロ「ダヴィデ像」 | 写真：アフロ |
| 4)「ガール水道橋」        | 写真：アフロ |

2023年度奨学生入学試験【日本史B】

- |             |       |
|-------------|-------|
| 1)「真如堂縁起絵巻」 | 真正極楽寺 |
|-------------|-------|